

<幼児教育>

表現する楽しさを味わいながら豊かな感性を育む援助の工夫
～喜んで取り組むリトミックを目指して～

宜野湾市立嘉数幼稚園教諭 仲地 あやの

目 次

テーマ設定の理由	1
目指す幼児像	1
研究目標	1
研究仮説	1
研究の全体構想図	2
研究内容	
1 豊かな感性とは	3
2 幼児にとっての表現とは	3
3 園生活の自然な流れの中とは	3
4 リトミックについて	4
5 教師の役割と援助のあり方	9
6 陥ってはならない表現指導と教師として心がけていくこと	9
7 実践事例...幼児の姿の読み取りと援助のあり方	11
検証保育	
1 学級の実態	12
2 ねらい・内容	12
3 教材について	12
4 検証保育までの流れ	13
5 本日の生活の流れ	15
6 保育を終えて	16
仮説の検証	
1 具体仮説1の検証	17
2 具体仮説2の検証	18
3 具体仮説3の検証	19
研究の成果と今後の課題	
1 研究の成果	19
2 今後の課題	19
3 終わりに	20

< 幼児教育 >

表現する楽しさを味わいながら豊かな感性を育む援助の工夫

～ 喜んで取り組むリトミックを目指して ～

宜野湾市立嘉数幼稚園教諭 仲地あやの

テーマ設定の理由

近年、少子化や核家族化、都市化、情報化、国際化など我が国の経済社会の急激な変化を受けて、人々の価値観や生活様式が多様化している。一方で、社会の傾向としては、人間関係の希薄化、地域における地縁的なつながりの希薄化などの状況が見られるとの指摘がある。それを受けて、平成12年に改定された幼稚園教育要領には「一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること」及び「人に対する信頼感や思いやりの気持ちは葛藤やつまずきを体験し、芽生えてくることに配慮すること」等が新たに示された。

しかし現状を見ると中央教育審議会(2005年1月)の答申でも指摘されているように、幼児の育ちについては、基本的な生活習慣や態度が身に付いていない、他者とのかかわりが苦手である、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない、運動能力が低下しているなどの課題がある。本県や本市でも努力事項として「遊びを通しての総合的な指導の充実(直接的・具体的な体験を通し、幼児の心情、意欲、態度を養う)」を掲げている。

本園の実態を見てみると、まじめでおとなしく素直であり、言われたことや約束事は守れる子が多い。絵本や紙芝居が好きで、話を聞く態度もできている子が多いように思われるが反面、指示を待つ子が目立つ。また、活動の場面において、自分の思いを上手く表現出来ず気持ちが抑えられない子もいる。また、ゲーム等で負けても悔しがらない子、最初から諦めて意欲がもてない子等もいる。

そこで、指示を聞いて反応したり身体全体を動かして、みんなと表現を楽しむことが中心となるリトミックを幼稚園生活の中に取り入れることにする。ピアノの音に合わせて体を動かしていく中で、心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われると考える。また、集団でのリトミックを通して、自分や友達のよさに気付き共感しあいながら、時には思い通りにならないことなどの体験をすることによって、豊かな感性が育まれるのではないかと考え、本テーマを設定した。

めざす幼児像

感じたことや考えたことを表現して楽しむ子

友達のよさに気付き、共感できる子

相手に対して思いやりの気もちを持てる子

研究目標

リトミックの中で自分の感情や体験を表現する楽しさを味わい、教師や友達と感動を共感しあいながら豊かな感性を持った子を育てる。

研究仮説

1 基本仮説

幼稚園生活の自然な流れの中でリトミックを取り入れることによって、表現する楽しさを知り、自分のよさや友達のよさに気付き、共感する喜びや葛藤・つまずき等の経験を重ねていくことにより、豊かな感性が育つであろう。

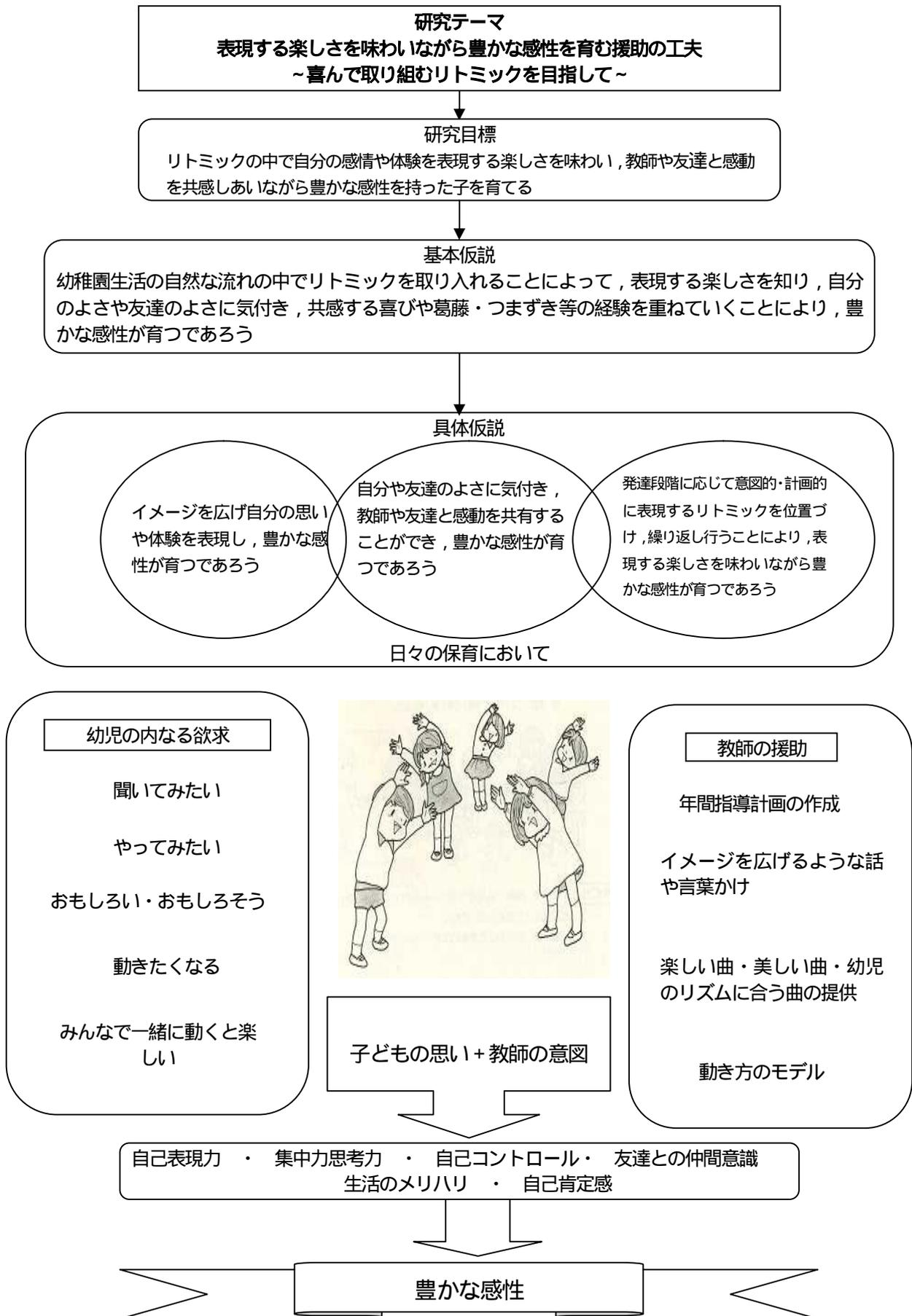
2 具体仮説

(1) 日々の保育において、園生活の自然な流れの中でリトミックを取り入れることにより、イメージを広げ自分の思いや体験を表現し、豊かな感性が育つであろう。

(2) 子どもの思いと教師の意図とを重ねたりリトミックを園生活の中で取り入れることにより、自分や友達のよさに気付き、教師や友達と感動を共有することができ、豊かな感性が育つであろう。

(3) 年間指導計画を立て、発達段階に応じて意図的・計画的に表現するリトミックを位置づけ、繰り返し行うことにより、表現する楽しさを味わいながら豊かな感性が育つであろう。

研究の全体構想図



研究内容

1 豊かな感性とは

感性とは「様々なものが有している面白さや美しさ、不思議さなどに敏感に反応したり気付いたりする感覚」と幼稚園教育要領解説にある。それは幼児一人一人異なっており、経験の積み重ねによって育ってくる。感性を豊かなものにするためには、幼児の興味関心を引き、心を揺さぶり、何かを感じ、考えさせるような魅力あふれる豊かな環境を構成していくことが重要であると考えられる。

豊かな感性を育てていく上で、幼児がその環境と関わるなかで受け止めたことが大事であり、それらとのかかわりを十分に楽しませていくことが最も重要なことである。

2 幼児にとっての表現とは

野波健彦氏の論文「自己表現を楽しむ」を参照し、次のようにまとめた。

(1) イメージの蓄積

幼児は、毎日生活しながらさまざまな事象や出来事に出会い、いろいろな感情を経験し、そこから幼児の心のなかにイメージが生まれる。幼児は、こうして具体的なイメージを広げたり深めたりしていくことになるが、このイメージは教師が幼児の心の動きをしっかりとらえ、受け止め、理解してやることで着実に蓄えられていく。こうして蓄えられたイメージが組み合わされているいろいろなものを思い浮かべる想像力になり、自分なりの方法で意欲的に表現する力につながっていく。

(2) 感動の共有と教師の役割

幼児が心を動かされた事物や事象に出会うと、それをその幼児なりの方法で教師や友だちなど、周囲の人に伝えようとする。こうした幼児の感動の表現や伝え合いには安定した温かい人間関係の確立が必要である。そのような雰囲気の中で感動は伝えられ教師や仲間を受け止められることで定着し、共有されることでさらに深まっていくのである。

また幼児の心の動きの表現には、年齢や個々によって幅があるので、ときには表す内容が他者には理解されにくい場合もある。教師にはその表現を受容し共感しようとする柔軟な感性と姿勢が大切である。教師が仲立ちとなって周りの幼児に伝えながら、その幼児の感動を皆で共有することや伝え合うことの喜びを十分に味わえるようにしていくことが必要である。このような経験を積み重ねることを通して幼児同士が伝え合う姿が見られるようになる。

3 園生活の自然な流れの中でとは

倉橋惣三氏は、幼稚園真諦（1965）の中で次のように述べている。

(1) 幼稚園の一日は、朝来てからお帰りまで、ずっと流れつづけている。

(2) 教育の間の子供の生活は、次から次へと形も中味も変えていく。その変わり方は、ぼつんぼつんと切り離れたものにならないで、いつの間にか移っていき、移り変わるには、変わるだけの必然性があって変わっていくことを見落としてはならない。

(3) 流れている幼児の一日の生活を、強いて区切ろうとして、各組ともに画一的に、合図をして幼児を出入りさせてはならない。

(4) 流れを赴くがままに放任して置くのではなく、その向きも速度も教師が加減しなければならない。そのためには、教師の油断のない、目と心の動きが岸の方で行われていなければならない。決して流れを止めず、時として淀ませてみたり、溢れさせてみたり、教師の都合ではなくそのときの条件にしたがって、流れていく水にいろいろの変化あらしめていくのである。

(5) 保育案はあるがままの幼児生活を、どう誘導するかという所に立てられる。ある範囲内で自分の選択のきくようにしておき、そのどれを選んでも、子供たちに適するものが用意してあるようにはしなければならない。子供が誘導されているとは露知らず、自然と選ぶ気になるように準備し、選んだものの中には必要な教育価値がちゃんと配分されているのでなければならない。このような保育案を誘導保育案とする。

- (6) 一つの誘導保育案が立てられると、それを中心として幼児の生活が発展していく。案そのものが手本になるのではなく、それが中心になって、主題が導かれたり、暗示を与えられたり、またうながされたりしていく。つまり、主題の誘導力によって、生活が次々に生み出されるのである。

4 リトミックについて

(1) リトミックとは

リトミックは、スイスの作曲家・音楽教育家であったエミール・ジャック＝ダルクローズ(1865 - 1950)によって創案、体系化されたもので、音楽と「身体を動かすこと」と結びつけた「リズム運動」「ソルフェージュ」「即興演奏」を三本柱とした教育法である。

私達は、日常的に思ったり考えたりしたことを自分以外の人に、言葉や絵など、何らかの表現手段を用いて伝える。音楽も、コミュニケーション媒体として重要な役割を担っている。ダルクローズは、知識の詰め込み教育を批判し、どんな知識も自らの欲求、つまり「聴いてみたい」という内的欲求に基づいたものでなければ十分な効果を期待することはできないと考えた。

そこで、ダルクローズは内的欲求を引き出す方法として「即時反応」の指導を置いた。こうして得られた欲求は、音に対する集中力を高め、即時性、注意力、観察力を促す礎となる。そして、からだを媒体としたリトミック教育では、同時に、判断力、反応力、想像力、創造力などの能力を高めるのである。

リトミックでは、音楽を単に耳だけで聴くのではなく、同時に動きながら、見ながら音楽を感じる、全感覚的な音楽教育を目指している。初期の段階では、幼児期の最も特徴的な行動である“模倣”を大いに活用すべきである。この模倣によって幼児の「発見のセンス」が刺激され、同時に観察力も高められる。このような過程を通して、幼児は新しい自分の表現手段を開発していくことになる。想像活動は、発見する力を養い、やがては創造活動にまで発展されるのである。(ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー 板野平：監修 神原雅之 野上俊之：編著 1987 引用)

(2) 幼稚園生活におけるリトミック

ダルクローズが「内的欲求を引き出す方法として考えたリトミック」と、「幼児が教師の援助の下で主体性を発揮して活動を展開していく」幼稚園教育(幼稚園教育要領解説)を結びつけて、次のようにまとめた。

取り入れる理由

- ア 友だちと音に合わせて体を動かす楽しさや、感動を共有する楽しさを体験できる。
- イ ピアノの音や合図を聴こうとするようになり、注意力が増す。
- ウ 生活にメリハリをつけ、自己発揮と自己抑制の調和のとれた発達を促す。
- エ 体験をひろげ、表現力を豊かにする。

取り入れ方の工夫

幼稚園教育においては発達の側面から5領域が提示されており、それぞれ独立して指導されるものでなく、相互に作用しながら総合的に指導されるものである。

また、幼稚園教育要領解説にも示されているとおり「特定の表現活動のための技能を身に付けさせるための偏った指導が行われることのないように」つまり、教師主導の訓練的な取り組みにならないように配慮しつつ、幼児期の「自己表現・自己抑制・集中力」などの育成をする事は今日の課題である。

これらのことを発達の課題と捉え、リトミックを「園生活の自然な流れの中で」「体を動かすことを喜ぶ」という事に視点をおきつつ、時にはクラス全体、園全体の取り組みとして取り入れていこうと考えた。年間指導計画を立てる際には、発達の節目や幼児の姿をとらえ、易しいものから次第に友達との関わりや工夫が必要なものを取り入れるようにした。また、季節や幼稚園の行事、毎月の歌や絵本、手話ソング、リズムはもちろん、環境の構成を配慮に入れた園児の取り組むであろう遊びと関連させながら立てた。

表1 リトミックの年間指導計画

	発達の節目と幼児の姿	ねらい	リトミックの内容	環境および援助
(四月～五月) 期	<p>教師や友達との関係で安定する時期</p> <p>・新しい生活に対する不安と期待から緊張感がある。遊びに入っていけず傍観する子もいる。</p>	<p>親しみのある曲に合わせて先生の動きを模倣する。</p> <p>曲に合わせて体を動かす楽しさを味わう。</p>	<p>まねっこを楽しむ</p> <p>指示や合図を聞き分ける</p> <p>・簡単な親しみのある曲に合わせて先生の真似をしてあそぶ。</p>	<p>・新しい環境に早く慣れるように暖かい雰囲気作りに努める。</p> <p>・一人ひとりを把握し、信頼関係を築くようにする。</p>
(六月～七月) 期	<p>気のあった友だちや小グループで安定する時期</p> <p>・気の合う友だちが出来るが、気持ちの表現が上手いかずぶつかることも多い。</p>	<p>気の合う友だちと一緒に曲に合わせて体を動かす楽しさを味わう。</p> <p>喜んで自分なりの表現をする楽しさを味わう。</p>	<p>仲良しの友だちと一緒に工夫する</p> <p>・気の合う友だちと触れ合いながらリズムあそびを楽しむ。</p>	<p>・個々の幼児理解に努め、友達関係が広がっていくような声掛けをする。</p> <p>・教師や友達と感動が共有できるよう援助する。</p>
(九月～十月) 期	<p>友だちやグループが新しく変わって個々の力を発揮する時期</p> <p>・生活や遊びに意欲的に挑戦しようとする姿がみられる。</p>	<p>友だちとみんなで表現する楽しさを味わう</p> <p>イメージを出し合いながら、友だちのよさや自分のよさに気づき表現する喜びを味わう。</p>	<p>仲間とイメージを共有しあって表現することを喜ぶ</p> <p>・たくさんの友だちとみんなで色々なものになりきってあそぶ</p> <p>・思い描いたイメージを動きや自然な言葉で表現し、見せ合う</p>	<p>・個々の力が発揮され、楽しく取り組んでいけるよう側面から援助する。</p> <p>・子ども達の主体性を重んじ、イメージが膨らむような環境構成や教材の工夫に努める。</p>
(十一月～十二月) 期	<p>友だちを認めリーダーを中心にまとまろうとする時期</p> <p>・友達と一緒に工夫して遊びをすすめていく。</p>	<p>友だちと互いに考えを出し合い、工夫しながら一緒に表現する楽しさを味わう。</p>	<p>みんなでイメージを広げながら創って楽しむ</p> <p>・同じテーマに向かって、友だちと力を合わせながら表現していく。</p>	<p>・一人ひとりの表現を認め合い、喜びや自信につながるように援助する。</p>
(一月～三月) 期	<p>生活や活動の見通しがつくようになり、自主的に生活を進めていこうとする時期</p> <p>・互いを認め合い、役割分担して遊びを勧める。</p>	<p>友だちと互いに考えを出し合い、工夫しながら一緒に表現する楽しさを味わう。</p>	<p>みんなでイメージを広げながら創って楽しむ</p> <p>・同じテーマに向かって、友だちと力を合わせながら表現していく。</p>	<p>・一人ひとりの表現を認め合い、喜びや自信につながるように援助する。</p>

表2 具体的なリトミックの年間指導計画

	・リズム リトミック	歌・手話ソング・手遊び	絵本・紙芝居	主な行事
(四月～五月) 期	<ul style="list-style-type: none"> 飛んでいった麦わら帽子 ゴーゴーゴーヤーでGO！ むすんでひらいて くつがなる おおきなたいこ おつかいありさん ひよこ めだかのがっこう ああおどろいた おたまじゃくし おはなしゆびさん お花がわらった かわいいかくれんぼ 	<ul style="list-style-type: none"> 園歌 幸せなら手をたたこう 先生とおともだち ガンバリマンのうた おはながわらった ぞうさん こいのぼり ことりのうた さんぽ せつけんさん つばめ あさがおこりゃこりゃ おべんとうばこの歌 たまねぎセッセッセ 	<ul style="list-style-type: none"> ぐりとぐら ぐるんばのようちえん ぐりとぐらのえんそく ノントンシリーズ ねずみくんのチョッキ ねずみのでんしゃ 集まったらなあに はらべこあおむし そらいろのたね せんたくかあちゃん こすずめのぼうけん たろうのともだち ともだちやシリーズ どれがぼくのかわかる 	<ul style="list-style-type: none"> 入園式 身体測定 誕生会 春の遠足 ミルク開始 交通安全指導 家庭訪問 日曜参観 歯科検診 内科検診

<p>期 (六月～七月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ディズニー体操 おうまのおやこ あくしゅでこんにちは すてきなともだち きんたろう ころりんたまご シャベルでホイ 線路はつづくよどこまでも 時計 ぶらんこ 	<ul style="list-style-type: none"> あめふりくまのこ かえるのうた はをみがきましよう 大きな古時計 せみ みずでつぼう しゃぼん玉 かえるのうた 時計の歌 ねずみのはみがき 月桃 おとうさん 七夕さま ヤッホッホ夏休み きらきら星 あしたも元気に 元気に仕事 	<ul style="list-style-type: none"> つとむくのかばみがき はははのはなし もりのはいしゃさん ゆかいなかえる おたまじゃくしの101ちゃん たまごにいちゃんシリーズ ちいさなきいろいかさ さるのはいしゃさんとへびのかんごふさんシリーズ 白旗の少女 かわいそうなぞう 七夕のお話 スイミー ぐりとぐらのかいすいよく ねずみのかいすいよく 海辺のハリリー 	<ul style="list-style-type: none"> 良い歯の表彰 はみがき指導 避難訓練 保育参観 誕生会 聴力検査 たなばたまつり プール遊び 一学期終業式
<p>期 (九月～十一月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎体操 稲しり節 三村おどり メトロポリタン・ミュージアム おばけやしき にんげんていしな おそうじごっこ おもちゃのチャチャチャ 冬のあそび おさんぽごっこ インディアンごっこ やまびごっこ バツタ アメチョコさん 踊ろう楽しいポーレチケ きのいしあひる こおろぎ ことりのおはなし 誰かさんの頭に たのしい足音 でぶいもちゃんとちびいもちゃん どんぐり ほうかほか ふしぎなポケット コンコンクシャンのうた おんまはみんな クリスマスのかねが 北の国から 	<ul style="list-style-type: none"> うみ 運動会の歌 小学校校歌 こおろぎ じんじん ペーペーぬ草 遠足に行こう 動物園に行こう 魔法の言葉 いっちくたっちく ちんぬくじゅうしい ていんさぐぬ花 バスごっこ 花め風車 小さい秋 花さき山 赤田首里殿内 とんぼのめがね どんぐりころころ まつぼっくり もみじ やきいもグーチーパー 北の国から あわてんぼうのサンタクロース ジングルベル 赤鼻のトナカイ おもちゃのチャチャチャ 	<ul style="list-style-type: none"> つきのぼうや 初めてのキャンプ とんぼのうんどうかい 14ひきのおつきみ だっただったのおばあさん もったいないばあさんがくるよ しっこさん えんそくバス とべバツタ だんまりこおろぎ おおきなおおきなおいも だんごどっこいしょ すてきな三人くみ ぐりとぐらのおきやくさま サンタクロースってほんとにいるの？ かさこじぞう クリスマスシリーズ 	<ul style="list-style-type: none"> 二学期始業式 身体測定 交通安全指導 祖父母参観日 誕生会 聴力検査 運動会 眼科検診 ジャガイモの植え付け 秋の遠足 保育参観 就学時健康診断 消防署見学 園外保育(市民図書館) 避難訓練 お楽しみ会 おゆうぎ会 二学期終業式
<p>期 (一月～三月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> アンパンマン体操 いとまき体操 こぎつね ケンパであそぼう おしくらまんじゅう 動物の行進 おしょうがつ もちつき たきび びっくりばこ まめまき 赤鬼くん 青鬼くん 花をつもう しりとり ひなまつり おおかみと七ひきのこやぎ お花の体操 お人形の夢とめざめ 	<ul style="list-style-type: none"> はつゆめヨンヤサ 12支かぞえうた お正月 ハイサイシーサー すうじの歌 たこのうた やぎさんゆうびん あんたがたどこさ 豆まき カレーちゃん うれしいひなまつり 思い出のアルバム ともだちになるために ドキドキドン一年生 みんなともだち あの青い空のように 	<ul style="list-style-type: none"> たこをあげるひとまねこざる おにムーチー こぎつねきっこ さんねん峠 かさこじぞう だんごどっこいしょ おなかのなかに鬼がいる おにたのぼうし ないたあかおに わたしのはなし てぶくろ だいくとおにろく のはらのひなまつり スーホの白い馬 ごんぎつね もうすぐ一年生 ざぼんじいさんとかきのき あいうえおの本 わたしのいもうと えんびつびな 	<ul style="list-style-type: none"> 三学期始業式 親子ムーチー作り 誕生会 もちつき大会 日曜参観 身体測定 節分 記念撮影 観劇 カレーパーティー チャレンジ大会 一年生との交流会 お別れ遠足 ひなまつり会 保育参観および懇談会 給食試食会 修了式

表3 検証保育までの保育計画

期	ねらい	内容	月日	幼児の活動内容 環境その他	教師の援助と配慮事項
期	親しみのある曲に合わせて先生の動きを模倣する。 曲に合わせて体を動かす楽しさを味わう。	まなっこを楽しむ 指示や合図を聞き分ける	H.18 11/8	ホールにて全園児・未就園児・小学校特別支援学級の児童と合同で行う。 歌を歌う「どんぐりころころ」「まつぼっくり」 一人ずつ曲に合わせて動く {金魚・かめ・あひる・四足ハイハイ・高足ハイハイ・ギャロップ・うさぎ・三輪車・とんぼ・とんび} 二人ずつ曲に合わせて動く {二人ポート・後ろ向きの二人ポート} 一人で曲に合わせて歩き、合図でグループをつくり曲に合わせて手合わせをする {おどろろポーレチケ}	教師は全員（幼4人・小2人）で行う ・靴下と上履きを脱ぎ、名札をはずすように声掛けをする。 ・子ども達が楽しく歌えるように、歌詞を知らせ一緒に歌ったり踊ったりする。 ・子ども達はその動きを表す動物や物をイメージし易いように曲を弾き、声を掛ける。 ・子ども達の様子をしっかり見守り、パートナーが探せない子には援助をする。 ・グループを作る様子を観察し、何かトラブルが起こった時はなるべく自分達で解決出来る様に援助する。 ・危険の無いように注意し、見る態度・待つ態度を適宜知らせていく。 ・一緒に子ども達と動きながら、様子を観察する。
期	気の合う友達と一緒に曲に合わせて体を動かす楽しさを味わう。 思い描いたイメージを自分なりに表現する楽しさを味わう。	仲良しの友達と一緒に工夫する	11/15 11/20	ホールにて学級で行う。 むすんでひらいて “その手を に”というとき、言われた体の箇所を触る。 各グループから一つずつ前に出て、のの部分で好きな場所を示す。 他のグループの子は、その支した子の真似をする。 “その手を さんに”というとき、で示された動物や小鳥になって動く。 くつがなる 一人ずつピアノに合わせて歩く。 ピアノの合図で、2人組になり、手をつないで歩く。 ピアノの合図でグループになり、手合わせをする。 ホールにて学級で行う。 うさぎとかめ 「うさぎとかめ」の素話を聞く。 ピアノに合わせてうさぎやかめになって動く スタート 昼寝 あわててゴール うさぎやかめ、その他の動物達になって物語を表現する。	・靴下と上履きを脱ぎ、名札をはずすように声掛けをする。 ・曲が聞こえたら動く、曲が止まったら止まるという約束を確認する。 ・ で体の箇所をゆっくり示す。 ・子ども達がイメージし易いように話をしながら表現させていく。 ・前に出た子がとまどわないように、困ったら隣を見ても良いことを伝える。 ・ には、子ども達がよく知っていて表現しやすいような物を言っていく。 ・上手に表現している子を紹介し、自信を持たせるようにする。 ・分かりやすく合図を出すように努め、すぐにグループを作れない子でもなるべく自分達でグループになれるように、援助するタイミングを図る。 ・手合わせし易いように、「1・2・3・4」などの拍子を数えてあげる。 ・靴下と上履きを脱ぎ、名札をはずすように声掛けをする。 ・子ども達の注意を引き付けるように工夫しながら、うさぎとかめの素話をする。 ・右手でうさぎをイメージさせるように付点八分音符で弾き、左手ではカメをイメージさせるように二分音符で弾く。 ・うさぎ・かめ・その他の動物、それぞれ良く表現している子を紹介し、自信を持たせる。

期	<p>友達とみんななどで表現する楽しさを味わう</p> <p>友達と互いに考えを出し合い、工夫しながら一緒に表現する楽しさを味わう。</p>	<p>仲間とイメージを共有しあって表示することを喜ぶ</p>	12/1	<p>ホールにて学級で行う</p> <p>冬のおそび(雪景色をイメージして)</p> <p>冬や雪景色、おそびなどをイメージを膨らませ、ピアノに合わせて雪になって動く。</p> <p>雪が降ったらどんな遊びがあるか考えてみる。</p> <p><u>子どもの声</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 雪だるま・雪合戦・おうち(かまくら)・スキー・スケート <p>雪だるまを作ってみたり、雪だるまになって動く。</p> <p>スケートを表現してみる。</p> <p>雪合戦の表現をし、男の子対女の子で雪合戦大会をする。</p>	<p><u>上履きを脱ぎ、靴下のままで行わせる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 名札をはずすように声掛けをする。 雪の絵本や写真を見せたり、話をしたりして、雪をイメージし易いように配慮する。 子どもの声を拾い、表現しやすい物が出るようにヒントを与えたりする。 足りない言葉はさりげなく補いながら、子ども達の発言を認める。 雪だるまを作る動きを一緒に行い、その後ピアノを弾きながら、雪だるまになって行進するよう声掛けをする。 雪だるまやスケートをイメージし易いように話や声掛けを工夫し、上手に表現できた子を紹介して自信を持たせるようにする。 雪合戦は全員で行った後、雪合戦大会をすることによって、競争心を刺激して意欲を高めるようにする。
			12/8	<p>ホールにて学級で行う。</p> <p>にんげんていいな</p> <p>みんなでにんげんていいなを歌う。</p> <p>歌詞を見ながら先生の話聞いて、イメージを広げる。</p> <p>好きなように表現しながら歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 靴下と上履きを脱ぎ、名札をはずすように声掛けをする。 日頃よく歌っている歌なので、楽しく歌えるように、一緒に歌う。 歌詞を見せながらその歌の世界を語り聞かせ、イメージが膨らむように配慮する。 歌の世界に止まらず、思い思いに表現をさせる。
期	<p>友達と互いに考えを出し合い、工夫しながら一緒に表現する楽しさを味わう</p>	<p>みんなでイメージを広げながら創って楽しむ</p>	12/19	<p><u>今学期最後のリトミックなので、ホールにて全園児・小学校特別支援学級の児童と合同で行う。</u></p> <p>色々な歩き方</p> <p>みんなで曲に合わせて下記のような色々な動作をやってみる。</p> <p>歩く・スキップ・オオカミの歩き方・逃げる・捜す・ドアを叩く音(手足で表現)</p>	<p><u>教師は全員(幼4人・小2人)で行う</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 靴下と上履きを脱ぎ、名札をはずすように声掛けをする。 リトミックの約束を確認する。 ピアノで場面に合った曲を弾き、イメージが広がるように話し、各々の自然な動きを認めるようにする。 音を良く聴き、音に合わせて動くことに気付かせる。
			1/11	<p>ホールにて学級で行う</p> <p>おおかみと七ひきの子やぎ</p> <p>「おおかみと七ひきの子やぎ」の絵本を見る。</p> <p>みんなで曲に合わせておかあさんやぎや子やぎ、おおかみになって遊ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 靴下と上履きを脱ぐよう、声掛けをする。 物語が良く分かるように、子ども達の表情を確認しながら読む。 ピアノで曲を弾きながら、動きのヒントを与えたり、ナレーションを入れたりして子ども達が楽しいと感じるように配慮する。
			1/19	<p>検証保育</p> <p>ホールにて学級で行う</p> <p>おおかみと七ひきの子やぎ</p> <p>曲が止まったら止まり、話を聞くときはおしゃべりをしない等、約束を確認する。</p> <p>みんなで道具を運び環境を整える。</p> <p>みんなで曲に合わせておかあさんやぎや子やぎ、おおかみになって遊ぶ。</p> <p>今日見つけた良かったことや感じたことを、聞いたり話したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 靴下と上履きを脱ぎ、名札をはずすように声掛けをする。 リトミックの約束を確認する。 子ども達と作った小道具を一緒に準備し、イメージが広がり気持ちが高まるようにする。 物語の展開が分かるようにナレーションをしながら曲を弾き、表現させる。 成長を感じられる子や良い表現をしている子を紹介し、みんなで真似たり褒めてあげたりして、認める。

5 教師の役割と援助のあり方

(1) 教師の役割

幼稚園教育要領解説（平成 11 年 6 月）に教師の役割として示されていることを、表 4 にまとめた。

表 4 教師の役割

幼児が行っている活動の理解者
幼児との共同作業者
あこがれを形成するモデル
何らかの問題を抱えたりしているときの援助者

幼児が行っている活動の理解者

幼児一人ひとりがこれまでの生活や遊びでどんな経験をしているのか、今取り組んでいる活動はどのように展開してきたのか、また、自分の学級の幼児がどこで誰と何をしているのかなどを、とらえる必要がある。

幼児との共同作業者

幼児の心の動きや行動を理解するために、幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線に立つてものを見つめたり、共に同じものに向かってみたりする事が大切である。

あこがれを形成するモデル

教師が楽しそうに取り組んでいる活動は「先生のようにやってみたい」という幼児の思いを生み出す。また、幼児は教師の日々の言葉や行動する姿をモデルとし、善悪の判断やいたわり・思いやりなど、教師から受ける影響はとても大きいということを認識しておくことが大切である。

何らかの問題を抱えたりしているときの援助者

いつどのような援助を行うかは状況に応じて判断することが重要である。教師がすぐ援助することによって幼児が自ら工夫してやろうとしたり、友だちと助け合ったりする機会がなくなることもある。教師は一人ひとりの心の動きを把握した援助のタイミングや援助の仕方を考えることが大切である。

(2) 教師の援助のあり方

幼児の主体的な活動は、友だちとのかかわりを通してより充実し、豊かなものとなる。友だち同士のいさかいやトラブルは、幼児期の発達にとって大変意味のあることである。それらの経験を通して、幼児は自分の思いをはっきり表現して主張したり、自分の感情を抑えて相手を思いやる気持ちを学んだりしていく。

また、教師は幼児と生活を共にしながら、幼児一人一人の発達に応じて、相手の気持ちを受け入れたり、互いに協調していくためにはどのようにすればよいのかなどを体験を通して幼児に考えさせたり、集団生活にはルールがあり、守らなければならないことを体験を通して気付いたり考えたりする機会を与えていくことも重要である。

それから教師は、多角的な視点から幼児の姿をとらえなければならない。幼児とかかわる中で、幼児の感動や表現、工夫などを温かく受け止め、褒めたり励ましたり認めたりなどして心を通わせながら、望ましい方向へ向かっていけるよう、きめ細やかな対応をしていくことが大切である。

幼児一人一人が主体的に活動に取り組んでいるかを見極め、目的をもって充実した活動が展開できるような環境を再構成し、援助していきたい。

6 陥ってはならない表現指導と教師として心がけていくこと

丹野禧子氏は『保育講座 保育内容 表現』（ミネルヴァ書房 1990）の中で、陥ってはならない表現指導として表 5 の 6 つを挙げている。これらについて同著と幼稚園教育要領解説を参照にまとめた。

表5 陥ってはならない表現指導

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| (1) 生活から離れた表現指導 | 子ども達の思いや生活から離れた表現指導 |
| (2) 表現させる指導 | 「つくらせる」「うたわせる」「描かせる」ための指導 |
| (3) 表現結果の偏重 | 出来映えのよい表現 |
| (4) 行事のための表現指導 | 子ども達の気持ちを置き去りにした指導 |
| (5) 技術指導の偏重 | 大人の芸術にあてはめようとする指導 |
| (6) 専門的分野のこだわり | 大人の型通りの表現 |

(1) 生活から離れた表現指導 子ども達の思いや生活から離れた表現指導

幼稚園教育要領解説の「表現」の内容の取り扱いの中に、次のように記されている。幼児は、生活の中で感じたことや考えたことを様々に表現しようとする。その姿は、その幼児がこれまで家庭や幼稚園の生活で体験したことを再現して楽しんだり、友達や教師に伝えようとしたり、さらに工夫を重ねてイメージを広げたりするもので、その幼児の生活経験によって様々である。

そのような幼児の表現する楽しみや意欲を十分に発揮させるためには、特定の表現活動に偏るのではなく、幼児が幼稚園生活の中で喜んで表現する場面をとらえ、表現を豊かにする環境としての遊具や用具などを指導の見通しをもって準備することが大切である。

(2) 表現させる指導 「つくらせる」「うたわせる」「描かせる」ための指導

させる活動では教師によって決められた活動が先にあり、教師のその活動に対してのイメージが先行し子どもの思いを無視してしまうことが多い。そして子どもを受身の姿に変えていく。このような保育における活動では、教師は幼児一人ひとりがどのように感じたり、何に興味や期待感を持っているかということを感じ取る必要性を持たなくても保育が進められてしまう。いわゆる教師主導型の保育だからである。

(3) 表現結果の偏重 出来映えのよい表現

絵画や制作にも言えると思うが、楽器あそびなどを行うときに、子ども達はまず楽器で遊んでみたいと思うであろう。そんな子ども達の気持ちは顧みず、曲を仕上げることだけに集中するような表現指導では子ども達の表現力や感性は育たないとする。

(4) 行事のための表現指導 子ども達の気持ちを置き去りにした指導

(3)とも関連するが、運動会やお遊戯会等の行事のための表現指導は子ども達の気持ちに寄り添っているとは言えない。

表現遊びを1学期から遊びの中で自然に取り入れ、子ども達が慣れ親しんで、いよいよ誰かに観てもらいたい気持ちが高まってきたころに行事が来るのが望ましい。

(5) 技術指導の偏重 大人の芸術にあてはめようとする指導

大人の側で押し付けた集団美は子どもにとって無意味である。それは訓練に他ならず、子どもの意欲とは無関係に進められ出来上がっていくものであるからである。

また、教えれば簡単なことであってもできるかぎり子ども自身がやり方を探り出すまで見守っていくことが、子ども自身の充足感を感じながらの技術の習得につながると考える。

(6) 専門的分野のこだわり 大人の型通りの表現

子ども達に音楽や絵画等の表現指導をする際、毎日子ども達と一緒に園生活を送り、子ども達の様子を一番良く理解している担任が行うべきである。専門家を外部から招いて子ども達を指導させる方法は望ましくないと考える。

7 実践事例・・・幼児の姿の読み取りと援助のあり方

(1) リトミックをしている中で、つまづきが生じた時の援助

事例1

リトミックの中で4人グループを作るように合図をした。その時にY君のグループが5人になってしまった。彼らは自分達で「じゃんけんをしよう」と提案し、じゃんけんをした。最初に1人が勝ったが、その勝った子が「勝った人が1人しかいないからやり直そう」と言い、再度じゃんけんをした。すると負けが2人になり、その2人がじゃんけんをした。結局Y君が負けた。Y君は不本意な表情になる。

そこで、ずっと観察していた教師が、Y君に「3人グループがあるよ」と言葉をかけた。その後、Y君は新しいグループでリトミックを続けた。

その日の降園前のクラスのひとときに、Y君の悔しい気持ち、それを乗り越えて他のグループでも活動を続けられた事を皆に伝え認めたことによって、Y君の気持ちをみんなで共有した。

事例1の考察

この日のリトミックにおいて「4人グループを作る」という活動の中で、Y君は様々な感情体験をしたと考える。体を動かす事の楽しさの他に、グループを作る時のドキドキする気持ち、じゃんけんしている時の緊張感、負けた時の悔しい気持ちや挫折感、新しいグループに加わった時の我慢する気持ちなどである。さらにそれをみんなに認めてもらえた事によって、満足感などのプラスの感情体験で一日を終えることが出来たと思われる。この様々な感情を体験したことによって、Y君のイメージは心の中に蓄積され、想像力や表現する力につながっていくと考える。

また、教師の援助に視点を置いて考えると、援助のタイミング(下線部)が大切であることが分かる。もしグループを作る時点で援助していたら、子ども達の気付き、考える機会を奪っていたことが予測される。そして全く援助せずにいたなら、Y君はマイナスの感情体験で一日を終えることになっていただろう。

(2) 子ども達の生活から離れた表現指導

事例2

12月1日気温が24~25の暖かい日に、考案した指導計画通りに「冬のあそび~雪景色をイメージして~」という教材でリトミックに取り組んだ。

雪景色のイメージが持てるような絵本や映像をあらかじめ見せてから取り組む等の工夫もない上に、ほとんどの子が実際に雪を見たことも無く教師の話にポカンと口を開けていた。いざ動いてみようと思っても、雪が降る様子をどうにか表現できる子は若干名であった。

事例3

「むすんでひらいて」を歌わせると、興味を示さない姿が見られた。次に、子ども達にあまりなじみのない「くつがなる」の表現をさせようとした。すると、退屈してあくびをしている女兒が居た。

事例2・3の考察

事例2では、子ども達の生活とは全く関係の無い教材を持ってきてしまったために、子ども達が意欲的に取り組むことが出来なかった。12月に入ったばかりで、テレビでもあまり雪景色が放送されない上に、夏のように高い日であり、タンクトップを着ている子さえ居た(写真1)。

事例3では、五歳児にとっては易し過ぎたり、あまり馴染みのない教材を提供してしまった。それにより、子ども達は活動に意欲が持てなかったと思う(写真2)。

幼稚園教育の基本である環境を通して行う教育は、幼児の主体性と教師の意図がバランスよく絡み合って成り立つものである。教師主導の一方的な保育の展開ではなく、一人ひとりの幼児が教師の援助の下で主体性を発揮して活動を展開していかなければならない。事例を通して、子ども達をよく理解した上で指導計画を立てる事が大切であり、常に幼児の実態や育ちと照らし合わせて検討し直しながら保育を進めていく事が重要である事が分かった。



写真1 タンクトップの男児



写真2 退屈そうな子ども達

検証保育

検証保育指導案

日時：平成19年1月19日(金)
学級：宜野湾市立嘉数幼稚園1組
男児14人女児14人 計28名
保育者：仲地あやの

1 学級の実態

表6 学級の幼児を誕生月でみた男女数

誕生月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	全体
男児(人)	4	1	3	6	14
女児(人)	4	4	5	1	14
合計(人)	8	5	8	7	28

- (1) 表6から誕生月が比較的均等になっており、男女の偏りが見られる月はあるが、一般的にバランスの良い学級と言えると思う。
- (2) 家庭環境をみると、入園前に集団生活の経験のある子は約64%(18人)、降園後学童保育へ通っている子は、約32%(9人)である。半数強は共働きや母親が働いている母子家庭ではあるが、降園後は自宅や祖父母宅で過ごす子が多く「子育ては家庭で」の意識が高い。
- (3) まじめで素直な子が多い反面、問題を自分で解決できずに泣き出したり、教師に訴えてくる姿が見られる。
- (4) 約束を守り指示されたことはやろうとするが、自分で工夫したり考えてやろうとする子が少ないと思う。
- (5) 歌やリズムが好きで、友だちと一緒に歌ったり踊ったりすることを喜んでいる。しかし、人前に出されると大勢の目を気にしてやらない子も出てきている。また、男児の中には照れ隠しからふざけ始める子が数名いる。
- (6) 男児は虫が好きな子が多く、他のクラスの子達も一緒に虫採りを楽しむ姿が見られる。また、折り紙でかぶと虫やくわがた虫などを折る子もいる。
- (7) 絵本や紙しばいが好きで、一定時間静かに話を聞くことができつつある。
ゲーム等が好きで意欲的に取り組む子が多いが、中には負けても悔しがらない子や、負けるのが嫌で最初から参加しない子等がいる。

2 ねらい・内容

音や合図を良く聴いて、物語の展開に合わせてみんなと一緒に表現を工夫することを楽しむ。

- ・ ピアノの音やナレーションを聴き、それに合った表現をする。
- ・ 曲の雰囲気を受け止めて動きを工夫する。
- ・ 友だちの良さに気付き、それを取り入れて自分の表現を工夫して喜ぶ。

3 教材について

子ども達のほとんどは、幼い頃から「おおかみ」と絵本の世界で出会い、怖いけれども好感を持っている。それは、鬼ごっこの鬼のように、スリルを味わわせてくれるからではないだろうか。本教材の「おおかみと七ひきの子やぎ」は、「赤ずきん」や「三匹の子ぶた」と並んで、おおかみが登場する有名な童話である。話の内容が分かりやすくイメージが広がりやすい。ほとんどの子ども達が幼い頃からこの童話に親しみ、幼稚園に入園してからも絵本の読み聞かせや、「おおかみと子やぎ」のリズム遊び等を行ってきた。

それに曲を乗せ、登場人物になりきり楽しく体を動かすことで、音や合図を注意して聞くことが出来るようになるだろうと考える。また、場面に合わせた曲を提供し、ナレーションを入れることで物語へのイメージが広がり、友だちと一緒に表現する楽しさが味わえると思う。それから、音符の長さや曲の雰囲気を体で感じられるようにしていきたい。

4 検証保育までの流れ

<おおかみと七ひきの子やぎ>

日 時	幼児の活動と様子 …リトミックの内容 …教師の声掛け【】…遊び	教師の思い
12月19日(火)	色々な歩き方をしてみよう 教師の誘導とピアノで色々な歩き方をやってみた。 例： 元気よく歩いてみよう おおかみが来たよ。逃げましょう。 あれ、お友だちが一人居ないよ。心配だね。捜そう。 おおかみのようにドアを叩いてみよう。等 (子ども達の声) ・ おおかみが来るのが楽しかったね。 ・ おおかみ怖かった。	・ 音の違いに 気付いて欲 しい。 ・ 音に合わせ て動いて欲 しい。
1月11日(木)	おおかみと七ひきの子やぎを演じよう 絵本を読んでもらった後、曲に合わせてお母さんやぎや子やぎ、おおかみ になって遊んだ。 (子ども達の声) ・ おもしろかったね。 ・ 隠れる所があったらいいのに。 ・ 時計はアレ(壁時計を指して)しかないしね。	・ 物語のイメ ージを持っ て欲しい。 ・ 登場人物に なりきって 欲しい。
1月16日(火)	【隠れる場所作り】 ~子やぎのお家を作ろう~ 子ども達の「あったらいいな」と思う物を作ることを教師が提案した。 子ども達は賛成し、何を作りたいか口々に話し始めた。それから、時計・ド ア・家などのグループに自由に分かれて、厚紙に絵の具で描いた。ホワイト ボードに椅子とテーブルを油性ペンで描く子どもも現れた。 時計は箱型にすると、少人数しか隠れられずトラブルが起こることを見通し て、平面にして立て、後ろに何人でも隠れられるように工夫した。 ~使ってみよう~ 出来た道具を使い、曲に合わせてリトミックを行ってみた。 道具が完成したことで、ますますイメージが広がり、とても楽しそうに隠れ た。自分達で作った道具で遊べる楽しさを味わうことが出来た。 (子ども達の声) ・ ここに窓があればおおかみの手が見えるよ、白か黒か。 ・ ドアはこんな色じゃないだろう！ ・ 椅子が少ないよ。もっと描こう。 ・ (家を描きながら)レンガを描きたい。 ・ おおかみのお腹に入れる石があったらいいのに。 ・ おおかみが落ちる池もあったらいいのに。 ・ ハサミも作りたい。	・ 子ども達の イメージを 大事にして あげたい。 ・ 物語のイメ ージが広が るといい な。 ・ 何が必要か 子ども達に 考えさせて みよう。 ・ 作りたいと いう気持ち に寄り添っ てあげよ う。
1月17日(水)	【小道具作り】 ~池や石を作ろう~ 「池作りたいから紙ちょうだい」とR君が言ってきた。つなげたカラーケ ント紙を渡すと、クレヨンで魚を描き始めた。それを見て友だちが6人ほど 加わった。	・ 出来るだけ 子ども達の 発想を大事 にしてあげ たい。

	<p>今度は他児が「絵の具やりたいから水入れ欲しいんだけど～」と言ってきた。用意すると「イエーイ！」と喜んで絵の具で色塗りもしていた。その側の方では新聞紙を丸めて石ころを作る子がいた。</p> <p>～自由にごっこ遊びを楽しむ子ども達～ 前日に作ったドアを挟んで、「コンコン。お母さんですよ」「は～い(ドアを開けながら)」「ガオ～!!」と追いかけてっこを楽しむ姿も見られた。 (子ども達の声)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (池にクレヨンを走らせ)ここにワニが隠れているんだぜ。 ・ ここはサメもいるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出来たものを使ってごっこ遊びができるといいな。
<p>1月18日(木)</p>	<p>道具を使っておおかみと七ひきのこやぎをやってみよう 朝の遊びの中で、Yさんがこっそり訴えてきた。 Yさん「先生、リトミック楽しくない」 T(教師)「どうして？」 Yさん「だってみんな時計の後ろに隠れようとするんだもん」 T「そうか。じゃあどうしたらいいかな」 Yさん「男の子がみんなおおかみやればいいんじゃない？」 T「なるほどね。でも男の子の中でおおかみやるのが嫌な人がいたらどうする？」 Yさん「その時は子やぎやればいいさ」 T「そうね。じゃあみんなにも聞いてみようね」</p> <p>この話題をリトミックの前に子ども達へ投げかけてみた。すると、前日にやってみた時に時計の後ろに人が殺到し、M君が足を踏まれて痛かったとの事。</p> <p>また、他の子が「テーブルの方に隠れる人は3人しかいなかったよ。」と教えてくれた。それにより、「せっかく楽しく遊んでいても足を踏まれたりしたら痛くて、嫌になっちゃうよね。テーブルの方はまだ隠れられたみたいだし、じゃあ、今日はそういう事も考えながらやってみようね」と話し、リトミックに入った。</p> <p>しばらくすると、他の2クラスが見学に来た。お客さんを前にはりきって取り組んでいる様子が見られた。</p> <p>リトミックの後、お腹に詰める石が少ないことに気がつき、みんなで作り始めた。</p> <p>(子ども達の声)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (おおかみのお腹に詰める)石が足りない。もっと作ろう。 ・ (他のクラスの子)ぼくもやりたい!私もやりたい! 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分達で作った道具を使うとイメージが膨らむだろうな。 ・ がんばって作ったのだから、大事にして欲しい。 ・ 子ども達に、みんなが楽しめるようにするにはどうしたらいいかを考えて欲しい。 ・ 自信を持って取り組んで欲しい。



5 本日の生活の流れ



...ねらい・内容

時間	予想される幼児の活動	教師の思いや援助・配慮事項
8:00	<p><登園></p> <ul style="list-style-type: none"> 所持品の始末やお便り帳のシール貼りをする。 <p><朝の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> お庭をきれいにする。 <p><好きな遊びを楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> 各々好きな遊びを楽しむ。 <p>【戸外】フープ・竹馬・三輪車・ホッピング・駒まわし・羽根つき等</p> <p>【室内】リズム・かるた・まりつき・年賀状ごっこ・こま作り等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 笑顔で挨拶を交わし、気持ちよく一日が始められるように配慮する。 声をかけながら体調や気分等の様子を見る。 一緒に掃除をしながら、きれいになると気持ちが良い事に気付かせていく。 友達との関わりを大事にし、自分達で工夫したりアイデアを出し合ったり出来るようにゆとりをもって援助する。 お正月遊びやねらいに添った遊具を用意し、満足して遊べるような環境を工夫する。 一人一人の様子をよく観察し、各々のねらいや課題を読み取るよう努める。 片付ける意味をその都度確認しながら、身の周りをきれいに整理整頓する習慣をつけさせるように援助する。
9:30	<p><片付け></p> <ul style="list-style-type: none"> 時間に気付けて片付ける。 裸足でも怪我をしないように、ホールの床を点検する。 	<ul style="list-style-type: none"> 出欠を取り友だちの出欠に気付き、仲間意識や思いやりの心を育てるようにする。 見通しを持って意欲的に活動できるようにする。 脱いだ上履きを並べ、ホールへ移動できるように声掛けをする。
10:00	<p><リトミック></p> <ul style="list-style-type: none"> 今日一日の流れを知る。 名札・ジャンパーをはずし、上履きと靴下を脱ぐ。 <p>おおかみと七ひきの子やぎ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 出欠を取り友だちの出欠に気付き、仲間意識や思いやりの心を育てるようにする。 見通しを持って意欲的に活動できるようにする。 脱いだ上履きを並べ、ホールへ移動できるように声掛けをする。
10:15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ピアノの音やナレーションを聴き、それに合った表現をする。</p> <p>曲の雰囲気を受け止めて動きを工夫する。</p> <p>友だちの良さに気付き、それを取り入れて自分の表現を工夫して遊ぶ。</p> </div> <p>道具を準備する。</p> <p>おおかみやお母さんやぎ、子やぎになって遊ぶ。(別紙資料参照)</p> <p>今日見つけた良かったことや感じたことを、聞いたり話したりする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>音や合図を良く聴いて、物語の展開にあわせてみんなと一緒に表現を工夫することが楽しめるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> リトミックを楽しく行うために約束がある事を思い出させる。質問形式で、約束事の確認をする。 子ども達と相談して作った道具と一緒に準備し、イメージが広がり気持ちが高まるようにする。 物語の展開が分かるようにナレーションをしながら曲を弾き、表現させる。 成長を感じられる子や良い表現をしている子を紹介し、みんなで真似たり褒めてあげたりして、認める。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; display: inline-block;">引きつぎ</div>		
11:00	<p><おやつ></p> <ul style="list-style-type: none"> みんなで牛乳とおやつをとる。 <p><そうじ></p> <ul style="list-style-type: none"> 明日も気持ちよく過ごせるように、みんなで部屋や玄関をきれいにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全面や衛生面に注意しながら、みんなで準備し、楽しくおやつをいただけるようにする。 楽しく掃除ができるように褒めたりはげましたりしながら一緒にゴミを集めたり、雑巾をかけたりする。
11:30	<p><クラスでのひととき></p> <ul style="list-style-type: none"> 今日見つけた良かったことを、聞いたり話したりする。 先生の話聞く。 <p><降園準備></p> <ul style="list-style-type: none"> お便り帳を受け取り、帰りのお支度をする。 さよならの歌を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 一日の流れの中で教師が気付いた事や、子ども達が気付いた事を話し合い、体験を共有する。 明日に期待が持てるように明日あること等の話をする。 お便り帳を配り、一人ひとりの成長を共に喜ぶ。 所持品の準備をするように伝える。
12:00	<p><降園></p> <ul style="list-style-type: none"> 車に気をつけて降園する。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく降園出来るように一緒に歌いながら伴奏する。 安全に降園できるように言葉をかける。



6 保育を終えて

(1) 保育者の反省

1月11日に「おおかみと七匹の子やぎ」の絵本を読み聞かせた後、リトミックをやってみた。すると子ども達の中から「隠れるところがあつたほうが良い」という意見が出て、それから検証保育の前日まで子ども達主導で製作活動が始まっていった。

あらかじめMDに 幼児の活動と曲だけ ナレーション・曲を録音し、環境として保育室に置いてあったことで、子ども達が毎日の生活の中で自然に遊ぶことができたのだと思う。また、遊びながら足りない物や欲しい物を自分達で考え、教師に訴え、製作に打ち込むことが出来た。あらためて、環境構成の大切さを実感し、「園生活の自然な流れとは」という事を考えさせられる表現活動になったと思う。

前日まで病欠だった子ども当日は全員出席で、子ども達も楽しみにしていたことが伺われた。

曲に合わせて動き、曲が止まったら止まってナレーションに耳を傾けていた。体を動かす「動」の活動だけでなく、止まってナレーションを聞く「静」の活動の際も、みんな笑顔で楽しんでいる姿が見られた。

途中、子ども達は前日に作ったばかりの石を早く使いたくて順番を間違えたが、「おおかみさんが眠るまで待っててね」等の言葉で誘導出来たので良かった。

最後石がたくさん転がっていたので、急ぎよ、子どもの活動に「石集め」を入れた。ピアノで駆け足の曲を弾くと、石を入れるかごをもったR君が曲に合わせてかごを揺すりながら歩き回り、他児が石を入れ始めた。それを見て、子ども達が曲をしっかりと聴いていることや、自分なりの表現を楽しんでいると感じた。

リトミックの後、予定では「あくしゅでこんにちは」のリズムを入れるつもりだったが、「ガンバリマンのうた」に変更した。すると、みんな大きな声で楽しそうに歌っていた。

(2) 指導助言（沖縄キリスト教短期大学非常勤講師 大湾由美子）

「一人ひとりが十分に愛されていると感じられる保育」こそ、私達幼稚園教諭が目指している保育である。

感性とは「何かに出会って心を動かされる」こと。その積み重ねが豊かな感性になる。

「私の保育」と言えるような自分の得意分野を伸ばしていく。そういう教師の保育を抱き合わせたときにチームティーチングになる。

リトミックというのは、一つの技法である。仮説の中に「園生活の自然な流れの中で」とあるように、子どもに楽しさを味わわせるためのリトミックが望ましい。

子ども達と教師との信頼関係が出来ていると感じた。教師は「待ってあげればやってくれる」と子ども達を信頼し、ゆとりをもって関わっており、それを子ども達が感じ応えようとしていた。

子ども達が見通しを持って活動できる声掛けが大切なので、今日の保育の中で一日の動きを具体的に知らせていて良かった。

「園生活の自然な流れの中で」ということが大事であり、保育を細切れにしない事。朝部屋での好きな遊びの中でやっていたリトミックをホールで行うように持って行き、次第に人数を増やし、そのまま「おおかみと七匹の子やぎ」に持っていくと良かった。そうすることにより、あえて一斉に片付けの時間を取らなくても子ども達自身が気付いて片付ける事ができる。

仮説の検証

1 具体仮説1の検証

具体仮説1

日々の保育において、園生活の自然な流れの中でリトミックを取り入れることにより、イメージを広げ自分の思いや体験を表現し、豊かな感性が育つであろう。

【検証保育までの流れより】

1/11～おおかみと七ひきの子やぎ

「おおかみと七ひきの子やぎ」の絵本の読み聞かせの後、リトミックをした。教師が弾くピアノの曲に合わせて楽しそうに行っていた。しかし、おおかみが家に入ってきた時に隠れる場所が無いことに子ども達が気付いた。「どこに隠れる？」と友だちと相談し合いながら、ピアノの下に潜り込む姿や、壁に背中を付けて座り、頭を抱え込む姿が見られた。

その後の語り合いで「今日のリトミックはどうだった？」という問いに「楽しくなかった」の声が数名上がった。何故かと聞くと「隠れるところが無かったから」との答えがあった。そこで、「じゃあ、明日からみんなが隠れたい場所を作ろうか」と教師が提案したら、子ども達の笑顔とガッツポーズが見られた。

翌日は園の行事が入っていたため、やむを得なく製作を断念。休日を挟んでの待ちに待った登園日から、「おおかみと七ひきの子やぎ」の道具作りが始まった。子ども達が積極的に作りたい物を挙げていき、自由にグループに分かれて製作に入っていた。

出来上がったものを使ってリトミックを行い、また子ども達の中から作りたいものが生まれて作る作業が数日間、繰り返された。

【検証保育の様子】



<考察>

教師から向けられた課題を、より楽しくしたいという子ども達の思いから制作活動へと発展した。その中で子ども達は、製作や絵画の工夫をしながら感性が豊かになっていったと考える。また、友だちとの関わり方、道具の使い方、集中力、自己抑制力、言葉による表現力なども身につけていったと思う。

2 具体仮説2の検証

具体仮説2

子どもの思いと教師の意図とを重ねたりリズムを園生活の中で取り入れることにより、自分や友達のよさに気づき、教師や友達と感動を共有することができ、豊かな感性が育つであろう

【保育記録より】

11/20 うさぎとかめ

うさぎとかめの素話をした後、うさぎになってホールを跳ね回ってみた。その後でかめになるように合図をしようと思っていたら、「先生かめになってもいい？」とHさんが聞いてきた。「いいよ」と答え、高音でうさぎ、低音でかめをイメージさせるように曲を弾いてみた。

すると、うさぎが昼寝している間だけかめになる子が現れた。また、森の動物達をやる女兒が3人現れた。その動物達は座って手を叩いて、応援を始めた。他にも、物語には登場しない馬や犬などの動物になりきって、うさぎとかめの競争に加わる子も出てきた。

うさぎの表現が素敵だったMさんを紹介し、みんなで真似たり、かめの表現が個性的で面白かったR君を紹介して、友達の良さや自分のよさに気付けるようにした。



<考察>

指導案では、まずうさぎを表現してその後にかめを表現する予定だった。しかし、下線部の子どもの思いに応え、教師の伴奏を変更した。それにより自由にのびのびとイメージが広がり、役柄にとらわれることもなく物語の枠を超えて表現活動が活発になったと思う。

「自分や友達のよさに気付く」という点では、森の動物達や他の動物になった子供達を取り上げて認める機会を作らなかったのが、今後の課題としたい。

3 具体仮説3の検証

具体仮説3

年間指導計画を立て、発達段階に応じて意図的・計画的に、表現するリトミックを位置づけ、繰り返し行うことにより、表現する楽しさを味わいながら、豊かな感性が育つであろう。

【保育記録より】

おおかみをやりたい！

入園するまで集団生活経験が無かったT君は、入園式も母から離れて園児席に座るだけで精一杯の様子。みんなで立ってリズムをする際も、一人だけ立ち上がりず固い表情である。翌日からは極端に不安がり、母子登園をするようになる。それから少しずつ慣れては来たが、新しい活動をする時はいつも不安になり、泣いてしまう。6月頃まで園内に母親が居る状態が続く。

やっと慣れた頃に夏休み。二学期に入ってしばらくは涙を浮かべながらの登園ではあるが、何とか母親にしばしの別れを告げて部屋に入って来れるようになる。一学期から時々一緒に遊んでいた天真爛漫なH君との友情も、ますます深まったようだ。リトミックの時もH君の様子を見ながら、真似たりおどけて笑わせる様子も見られた。

いよいよ、三学期。リトミックでは「みんなでイメージを広げながら作って楽しむ」段階になる。曲に合わせて動くだけでなく、ストーリー性のある教材『おおかみと七ひきのこやぎ』を行う。T君はしっかりと、楽しそうに動いていた。仲の良いH君の影響も受け、人気の高いこやぎではなく、自分で選んだおおかみの役をおおかみらしく表現していた。

<考察>

初めての集団生活に不安を感じ、曲に合わせて体を動かすことに抵抗を感じているようだったT君が、その不安感を克服し、最後は自信を持って心から楽しそうな表情で表現をしていた。それは子ども達の発達段階に添った年間指導計画を立て、易しい動きから少し工夫が必要な活動まで繰り返し行ってきた事で、新しい事へ挑戦しようとする気持ちが育ち、その楽しさを知ることができたのだと思う。また、H君がT君にとって心の拠り所となり支えてくれたことも、T君の自信につながったと思う。

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 幼稚園教育の理論を学ぶことで、園生活の自然な流れの中にリトミックを取り入れる一つの方法を見つけることが出来た。
- (2) リトミックを通して、子ども達の表現力や感性の素晴らしさに触れることが出来た。
- (3) 年間指導計画を立てる上で、幼児の発達段階を見直し、教材を吟味することによって、即活用できるような資料を作ることができた。

2 今後の課題

- (1) 幼児教育についての理論の研究を続けていき、幼稚園生活の自然な流れを止めることなくリトミックを含めた保育を行っていくようにする。
- (2) 今後は保育記録のとり方を研究し、より良い保育を行っていけるようにする。
- (3) お互いの良さを認め合う語り合いの持ち方を工夫し、全園児が自信を持って表現遊びに取り組みるようにしていく。
- (4) リトミックに止まらず、子ども達のセリフで物語を進め劇に発展させたり、セリフやナレーションに曲を付けオペレッタに発展させて、遊びを深めていけるようにする。
- (5) 行事の持ち方を見直す必要がある。行事のための表現指導は教師主導になり易く、子ども達の気持ちに寄り添えない危険性がある。毎日の保育の自然な流れの中でリトミックや表現遊びを行い、その積み重ねの延長に行事が来るようにする。

3 終わりに

子ども達が楽しそうに活動するリトミックに魅力を感じながら、これまで日々の保育を行って参りました。そんな折、10月から半年間、この宜野湾市教育研究所へ入所することが出来ました。

まずリトミックを学ぶ前に「幼稚園教育とは何か」という原点に戻らなければなりません。それは、教師主導の訓練的な活動になりがちなりトミックと、幼児の自発的な活動としての遊びを通して行う幼稚園教育には、相反する点が多い事に気が付いたからです。

研究を進めていくにつれ、リトミックの創始者であるダルクローズの思いと、幼稚園教育の共通点があることも知りました。リトミックをどう幼稚園教育の中に取り入れていくかという事を研究するのは、とても難しく試行錯誤の連続でしたが、楽しい研究でもありました。私にとって、研究所での半年間は大変貴重で充実したものでした。このような機会を与えていただいたことを大変感謝しております。

研究を進めるに当たって、沖縄キリスト教短期大学非常勤講師の大湾由美子先生には、幼稚園教育のあり方や保育への姿勢を含め、たくさんの大事な事を教えていただきました。深く感謝申し上げます。また、研究の進め方や論文の書き方等、丁寧にご指導下さった、当研究所所長の長崎光義所長、上原等先生、研究の機会を与えてくださった嘉数幼稚園園長の佐久川紀成先生、副園長の宮城隆子先生、嘉数幼稚園教諭の皆さん、検証保育に協力して下さった杉村望先生と1組の子ども達に心から感謝申し上げます。更に、いつも明るく楽しく共に励まし合い、笑い合いながら研究を進めていった石嶺晋先生、棚原聖子先生、いつも暖かく励まして下さったはごろも学習センターの皆様、本当にありがとうございました。

<主な参考文献・引用文献>

- 『幼稚園教育要領解説』文部科学省(平成11年6月)
文部科学省中央教育審議会「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について(答申)」(2005/1)
『倉橋惣三選集第1巻・第3巻』倉橋惣三 フレーベル館(1965/07, 1965/12)
『心豊かに生活する子をめざして』読谷村立古堅幼稚園 平成5年度沖縄県教育委員会・読谷村教育委員会指定研究
『豊かな表現力を育てる「世界づくり」の一環としての表現』内田伸子(お茶の水女子大学教授)(平成7年9月)
『豊かな感性と表現力をはぐくむ』高杉展(松上東雲短期大学助教授)(平成16年9月)
『自己表現を楽しむ 豊かな感性と表現の育ちに向けて』野波健彦(山口大学教育学部教授 附属幼稚園長)(平成11年6月)
『健康な心と体をはぐくむ指導』高梨瑠子(群馬大学教育学部附属幼稚園副園長)(平成8年9月)
『幼児の生活と音や音楽』高柳恭子(宇都宮大学教育学部附属幼稚園教諭)(平成7年8月)
『保育講座 保育内容 表現』黒川建一/高杉自子編 ミネルヴァ書房(1990/08)
『幼児の指導 音楽リズム表現 動きによる表現の指導』西久保礼造・土屋かつ子共著ぎょうせい
『日本ダルクローズ音楽教育学会創立30周年記念論文集 リトミック研究の現在』日本ダルクローズ音楽教育学会編
開成出版(2003/11)
『改訂版 さくら・さくらんぼのリズムとうた ヒトの子を人間に育てる保育の実践』斎藤公子著 群羊社(1994/09)
『ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー』板野平:監修 神原雅之 野上俊之:編著 チャイルド本社(1987/05)
『幼稚園保育園 幼児の歌・リズム遊び(全5巻)』村田修子:編・指導 夏原明溪:編曲 音楽乃友社(1981/10)
『音楽リズム』中頭地区幼稚園協会 音楽リズム研究会(1983/06)